

## 四国・石鎚山 ~感動の銀世界~

【報 告 者】S 藤

【日 時】2011年2月11日(金)~12日(土) 【天 候】曇り/暴風雪

【参 加 者】N尾(L)、K藤、K原、F田ひ、S藤

### コースタイム

2/11(金) 12:55 ロープウェイ成就駅 13:30 成就社 八丁坂 前社ヶ森 夜明峠  
二の鎖小屋(テント泊)

2/12(土) 9:50 二の鎖元 14:00 ロープウェイ成就駅

### 報 告

今回の四国山行は、当初の計画では三嶺縦走の予定だったが、この週末は天候が大荒れ、雪の影響で今治・小松自動車道、松山自動車道共に通行止めに…。下道を通して三嶺に行くことも考えたが、みんなで相談した結果、石鎚山に変更することになった。三嶺に行けなくなったのは残念だったが、石鎚山にも行ったことがなかったので期待に気持ちはずむ。

12:00 頃石鎚山のロープウェイ乗り場に到着。辺りにはちらほらとスキー客の姿が見える。準備を済ませ、いざ出発。12:40 発のロープウェイに乗り、約10分ちょっとでロープウェイ成就駅に到着。装備を整えて登山開始。空は曇っているが風はほとんどない。ロープウェイの駅(標高1300m)から30分程歩き、石鎚神社中宮成就社(1400m)に到着。神社で登山祈願を済ませ、神社の前の広場を抜けると門があり、門の柱には小さく「登山口」という文字が。登山口の門をくぐってから先は、だらだらとした下りが続く。せっかくここまで登ったのと思いながらも、ロープウェイ山頂駅から神社まで登った分と同じ分だけまた下っていく。八丁坂と呼ばれるこの坂を約30分かけて下り終わると、八丁(1300m)というところに到着。ここからは本格的な登りが始まる。本来は木の階段が続いているようだが、階段は雪で覆われていて見えない。登り坂をしばらく歩き続け、途中でアイゼンを装着。さらに登り続ける。



周りの木々は枝にたっぷり雪をつけていて、見渡す限り銀世界。雪景色を楽しみつつ、登り始めてから約90分後、前社ヶ森と呼ばれる場所を過ぎると、今まで木々で隠されていた視界が開け、目の前には真っ白な瓶ヶ森（かめがもり）の絶景が！

しかも石鎚山と瓶ヶ森との間はびっしりの雲海に囲まれている！なんて幻想的で神秘的で素敵な景色…。そしてこんな絶景を見えるなんてなんてラッキーなんだろう。私の中では、たぶん今までみた山の景色の中で一番綺麗で感動した景色。石鎚側からみる雪をまとった瓶ヶ森のなだらかな稜線。今度はあの瓶ヶ森にも登ってみたいと思った。そして今とは逆に、瓶ヶ森から石鎚の絶景を見てみたい。しばらく足を止めて全員景色に見とれ、写真撮影タイム。そのとき今まで曇っていた空がぱっと晴れて日差しが差し込んだ。晴れた～！とうれしくなると、そばの木々たちを見上げると、真っ白に凍て付いていた霧氷が太陽の日差しを浴びてキラキラ輝いている。なんて綺麗なんだろう～とまた感動する。

瓶ヶ森と雲海の景色に感動した後はさらに先に進む。しばらく歩くと夜明峠付近に到着。ここからは目の前に石鎚の山頂が見える。16:30 青い屋根の二の鎖元小屋に到着。山頂へは明日の朝に行くことにして、今日はこの二の鎖元小屋のそばにテントを張ることに。雪でデコボコの地面を、ピッケルを使って平らにし、足りない雪を近くから集めてテントの土台を作り、その上にテントを設営する。必要な荷物だけをテントに



入ると夕食スタート。入山前に道の駅で買ったお惣菜を広げ、まずは乾杯。お惣菜の白菜のお漬物がすごく美味しくてあっという間になくなった。メインディッシュはそれぞれお好みのレトルトカレー等。トッピングにはハンバーグや唐揚げ、ウインナーなど。美味しくてお腹いっぱいになった。その後、雪を溶かしてお湯を作り、皆のテルモスに入れる。お酒もはずみ、その夜はとても楽しい宴会となる。カラオケの話から始まって、N尾さんが歌のものまね&熱唱をしてくださいました。レポーターがとても豊富で、歌のものまねはどれもそっくり！なぜかとても愉快で、みんなゲラゲラと笑い続けた。N尾さんは酔っ払っているから声の調子がよくないとおっし

やりながらも、とてもお上手でした。本当に楽しい夜だった。

翌朝、昨日とは天候が一変して、朝から外は暴風雪。吹雪いていて視界も悪く、今日の行動はどうするか。とりあえずN尾さんとK藤さんが少し偵察に行ってみることに。しかし、やはり視界も悪いため、山頂へは行かずにそのまま下山することに決定する。テントを撤収し、装備を整えて下山開始。歩いているうちにますます視界が悪くなり、時々強い風が吹く。不安定な天候の中、樹林帯の中をジグザグに下山していく。完全なホワイトアウト状態ではなく、かすかな視界はあったが、どこが登山道なのかはまったくわからない。地図で確認しながら進んでいく。N尾さんはどっちに進むのか少しでも迷ったら、勘で先に進まずに必ず地図やコンパスで確認し、慎重に判断していく。あの悪天候の中、そうやって行動できることはとても大変なことだと思った。こんなピンチの状況下でのN尾さんの判断力はほんとうにすごいと思った。もしN尾さんがいなかったら間違いなく遭難していたと思う。

そんな悪天候の中、樹林帯をトラバースしながら下山していたところで、なんと雪崩に巻き込まれる。誰かが、「雪崩！！」と叫んだ次の瞬間には、頭上の斜面を雪崩がすごい勢いで流れてきた。最後尾にいたK藤さんと、その前にいた私が雪崩と一緒に斜面を数メートル転がっていく。雪崩と一緒に斜面を転がりながら、背負っているザックが重くて体が仰向けになってしまい、顔が下の方に埋まってしまいそうで怖くて、必死でもがいてうつぶせ状態になった。雪が体に被さって足は重くて動かなかったが、顔だけでも出そうと必死で両手でもがいて顔を出す。ああ、助かった！！よかった！！幸い小さな雪崩だったので自力で脱出することができたが、もしもあれが大きな雪崩で、体の上に雪がどんどん被さってしまったら、重くてもうびくりとも動くことができなくなるのかなと思うと、とても怖くなった。

それからは雪崩の恐怖と戦いながらの下山となった。雪崩れそうな箇所にはさしかかると怖くてたまらなかった。万が一雪崩れた場合の、ピッケルを雪に刺す制止体制を教えてもらう。なるべく雪崩そうな箇所を避けながら下山していった。相変わらずホワイトアウトで視界が悪く、風が音を立てて吹く。半分は下っただろうか。このあたりからは登ってくる登山者とちらほらすれ違うようになった。登山者とすれ違うたびに、N尾さんが雪崩の危険のことなどを説明する。途中で引き返しているパーティーもいたが、そのまま登っていく人たちもいた。今、登ってきた人たちのトレースが残っていたので、このトレースをたどって行けば迷わずに下山できる、そう思ってトレースをたどっていくが、相変わらずの吹雪のせいで、10分もしないうちにトレースは跡形もなく完全に消えてしまう。このときは雪山の恐ろしさを感じた。それからも下山するパーティーに道を譲ったり譲られたりしながら下山を続けた。

もう雪崩の心配はないというあたりまでくるとかなりほっとした。さらに歩き続けて

いると、ようやくロープウェイの駅が！！上の方は吹雪で大荒れなのにこのあたりまで下りてくると、うそのように風もやみ穏やかになる。ああ、無事生還できた。一同、緊張がほどけてほっとした顔になる。

予定よりも早く下山したので、そのまま温泉に寄ってから帰ることに。温泉に入ったあとは、セルフサービスで好きなお惣菜などを選んで食べる定食屋さんに入って腹ごしらえ。みんな好きなものを食べて満足した後は、帰路へ。しかし、帰りも九州方面が雪のため、高速道路が通行止めで下道を通して帰ることに。福岡についたのは深夜を回ってしまったが、夜のうちに帰ることができた。今回も長い時間、運転をしてくださったN尾さん、本当にどうもありがとうございました。

今回の山行は、ほんとうにいろいろな経験をさせていただき、とても思い出に残る山行となった。1日目に見た素晴らしい銀世界と絶景、雪山でのテント泊、2日目の吹雪の中の下山、そして雪崩。冬山の恐ろしさを少しだが、実感することができたように思う。それと同時に冬山の素晴らしさも知ることができた。冬山の魅力に少しはまったような気がする。

今回、冬山でいろいろなことを教えてくださったN尾さん、2日間お世話になったK藤さん、K原さん、F田ひさん、ほんとうにありがとうございました。

